教員採用試験までの道のり

石井　咲良

1．教員を目指すきっかけと理由

私が教師になりたいと思い始めたのは中学二年生の頃だが、この頃は漠然としていてなりたい教師像も全くなかった。

大学へ進む時期に私は大学で何を学びたいのか、将来はどうするのかと考えた時、「英語教員」が真っ先に思い浮かんだ。英語を使った職業に就きたいのであれば通訳者になったり旅行会社に勤めたりしてもいいではないか、と思ったがこれらの職業に就く自分自身を想像することができなかった。そこでなぜ、私は英語教師になりたいのか過去を振り返りながら考えると自分自身納得のいく理由が沢山出てきた。

小学校は学校環境の面で助けられ、中学校は精神面、高校では人間関係で沢山の教師に助けてもらっていた。私は小学生の頃をほとんど海外で過ごし、現地校で日本人の先生や現地の先生に言語だけでなく学校生活や規則についても教わった。中学生の頃はスクールカウンセラーや先生に悩み事を打ち明けたことで心の支えになってくれた。高校ではなかなかクラスに馴染めなかった私を気遣ってくれた担任が同じ悩みを持っていた先輩の話をしてくれ親身になって考えてくれた。これらの経験から私は助けられながら成長していたことに気付き、当時の私と同じような悩みを持つ生徒を助けてあげ、生徒の学校生活をより良くしたいと考えるようになった。

2．教員採用試験の対策

教員採用試験に受かるためには様々な知識が必要である。私は神戸学院大学の第二キャンパスにある教職教育サポート室で多くの時間勉強した。教職教育サポート室に行くようになったのは二回生の春休みからである。二月になると対策講座があるので参加し、講義を受けたり模擬授業の練習をしたりしていた。

三回生になってから本格的に教員採用試験の対策を始めた。教材は「全国まるごと過去問題集」を使用し、教職教養や一般教養、専門教養の対策に取り組んだ。私は一人で勉強すると他の物に気を取られたりして集中力が短くなってしまうので教職仲間や友人と一緒に対策をしていた。問題を出し合ったり問題プリントを作成してもらいテスト形式で解いたりした。教材を借りて大学だけでなく、家でも勉強した。冬休みに入ると、友人と図書館や公民館などに行って一緒に勉強スペースで切磋琢磨していた。

面接練習と模擬授業の練習は先生方や教職仲間と一緒に行った。自身で受ける自治体の聞かれやすい質問を調べ、自分なりの答えを準備してから面接練習に挑んだ。質問に答えるときは自身の意見を簡潔に分かりやすく答えることを心掛けた。初めは緊張で自分の思う返答をすることができなかったが、練習を重ねていくうちに余裕ができ、はっきりと大きな声で受け答えができるようになった。

模擬授業練習では事前に出されたお題の内容を一週間ほど前から考え、練習に挑んだ。

私が受ける自治体は模擬授業ではなく場面指導だった。授業を考えるのではなく生徒指導の仕方を考える形であった。初めは場面指導をしたことがなく、どのようにしたらいいのか分からなかった。何度も練習して先生方からアドバイスをもらい、最終的には自分らしい場面指導をすることができた。

内容が複雑であったり覚えることが多かったりしてモチベーションの保ち方に戸惑ったが、同じ志を持った仲間と勉強することでお互い励まし合い最後までやり抜くことができた。

３．後輩へのメッセージ

教員採用試験の対策は早めに始めることを勧める。神戸学院大学では四回生の五月、もしくは六月に教育実習に行くので対策する時間が全くない。実習が終わるとすぐに教員採用試験が始まるので二回生から、遅くても三回生の前期から始めておくと精神面で楽になる。一人で対策に取り組むとモチベーションを保てなくなってしまうので教員採用試験に臨む友人と切磋琢磨して対策に取り組んでほしい。